

## 岩手南リアス支部

熊谷 洋一  
書記長

組合員	357人
管轄エリア	釜石市、大船渡市、陸前高田市、遠野市、大槌町、住田町
担当:JP 総合研究所 桐谷 光男	

## — 3月11日の地震、津波発生時の状況を教えてください。

当日は釜石浜町郵便局で勤務していました。当日は局長が出張で不在でした。私と女性職員、そして期間雇用の女性社員と3人でした。局内には営業時間中ということもあり、お客様も2人ほどいました。

長い揺れの地震で、これまでに経験したことのないものと直感でわかりました。

地震により棚が倒れる事はありませんでしたが、机の上の物などが散乱してしまいました。停電となりセキュリティーの異常を示す警報音が鳴り響いていました。

## — 14時46分の最初の地震後、まず何をされましたか。すぐに避難行動をとられましたか。

揺れは大きかったのですが、慌てて局舎外に飛び出すこともなく社員はお客様にも、頭上等に注意するよう冷静に対応してくれていました。郵便局は港の近くにありましたので、多少の津波でも避難しなければいけないと常に思っていました。停電で局舎の施錠キーが出せず、また郵便物や当日扱った証拠書の保管に手間取り、避難まで多少時間がかかりました。局のそばの高台の避難場所へは社員揃って避難しまし

た。通勤用の車も近くに停めてありましたが、動かすこともなく放置しました。後のニュース映像で、浮かんで流されているマイカーを見つけて愕然としました。

その後、市役所近くの中学校の体育館に避難し、全員でそこで夜を過ごしました。その体育館には、親の迎えが間に合わなかった小学生がたくさん避難してきましたので、避難所は夏休みのキャンプファイヤーのようでした。気落ちすることもなく、暖もとれましたし助かりました。

実は、郵便局の入っているビルは市の指定した津波避難ビルで、4階以上に避難するよう決められていましたが、そこに避難していたら孤島に取り残された様な状態となって精神的にはまいってしまったのではないかと、思います。

## — 地震発生後、すぐに状況を把握することができましたか。

防災無線は鳴っていたようですが、どのような放送であったか記憶がありません。周りの人の避難につられるように移動していました。普段局内ではラジオをかけていましたが、停電でラジオ・テレビからは情報を得ることはできませんでした。幸いにして津波に追われることなく避難することはできました。避難してからは携帯電話でのテレビや、周りからわずかに聞こえてくるラジオの音が情報となりましたが、断片的なもので余り役に立ちませんでした。携帯も通じませんし、停電で充電もできませんでした。

近くの釜石郵便局に勤務していた支部長は、局裏のお寺に避難していたようですが、2人の避難所の距離は200メートルほどしかありませ

んが、避難した日には会えませんでした。

その後5日間、その体育館で過ごしました。

## — 地震後に事業を再開するまでどの程度かかりましたか。

私の局は完全に水没してしまいましたし、業務を再開することができませんでした。現在も業務停止中で、今後の対応も未定です。どこで勤務するのかの指示も具体的な連絡を取ることができませんでしたので、組合書記局のある釜石郵便局に出勤しました。そこで局内の清掃作業などをお手伝いしました。

正式に釜石局に勤務することとなったのは3月22日からです。現在は釜石駅前の釜石鈴子郵便局で勤務しています。

郵便事業会社では早急に配達業務できるよう、職場の復旧と同時に各避難場所を廻り避難先の確認を行いました。郵便物を当初は自転車や徒歩で配達して廻りました。特に釜石局から継送される鶴住居・大槌の集配センターへは、道路の復旧、開通まで社員がリュックサックを背負って運んだりしました。郵便の配達は、流された郵便ポストの回収や判明した方への配達を早くから開始しました。

郵便局会社は、早いところで3月18日から非常払いの取扱いを開始しました。再開が困難な場所には移動郵便局の車両が被災地を巡回しました。現在は箱崎局にATM設置の移動郵便局の車両が配置されており、業務停止中の他の局長や応援の職員が出向いて業務をしています。

## — 仕事再開にあたり、苦労された点を教えてください。

郵便事業会社では避難

先の確認と現行化が大変でした。家族・親類・友人等の所在が判明すると避難所を移動していく人が多くその追跡が苦労しました。そして何より困ったのがガソリン不足でした。業務の機動車が使えない事に加えて、通勤の足が奪われてしまったことです。震災の影響による交通渋滞も大変でした。

郵便局会社では非常取扱いの確認、端末機の台数が少ないため内容等を確認できないこと、正当権利者の確認、移動郵便局では顧客の要望でも扱いによっては応えることができないこと等です。いずれにしても自らも被災している中で業務遂行から精神的負担が大きかったです。私にとっては、何よりも働く郵便局、職場自体が被災し、業務できないことです。

## — 仕事を再開して感じたことはありますか。

今後についての精神的不安からお客様が身近な金融機関や相談の窓口として郵便局、郵政事業を頼りにしていることを改めて実感しました。「情報、安心、交流の拠点」としての郵便局の役割は、地域にとって大切な役割であるとともに使命であると感じました。

お客様からの多岐にわたる相談から、今回の



大和田支部長(写真左)と熊谷書記長(同右)



津波に壊された釜石浜町郵便局



移動郵便車で営業する箱崎郵便局

震災が如何に甚大であったか痛感しました。何より大切なものは、命ですね。

——JP 労組の支援物資が届いたのはいつ頃でしたか。また、震災発生当初、最も必要とされたものは何でしたか。

3月下旬頃には書記局に支援物資が届いてきました。大きな支店や郵便局にはいろいろな物資が届きましたが、郵便局会社の小さな郵便局に行き渡っているのが心配でした。

どこの地域でもライフラインが寸断されたこともあり、全てが必要に感じましたが、何が一番だったかとなると、水は確かに必要でした。無くて不便に感じたもので、支援いただけなかったものが、ガソリンでした。

また言い方を変えれば、最も必要だったのは情報です。停電でも対応が可能なような、ラジオなどの情報源を用意しておく必要があります。

地元ラジオ局は、連日避難所にいる人々の名前を呼び続けていましたが、そうした事など、身近な情報が必要でした。

——地震・津波による支部内の被災状況を教え

て下さい。

支部エリア内の関係する社員等の犠牲者は全員で18人です。うち組合員本人の死亡が12人でした。当時の川坂支部長は陸前高田支店で勤務中でした。支店内にいたのに行方不明のまままだ発見できていません。

また丹野執行委員は大船渡支店で休暇中で亡くなられてしまいました。組合員の同居家族が死亡されたのは27世帯にも及んでいます。こんなに多くの仲間と家族を失うこととなったのは非常に残念で

す。

住宅の喪失など組合員の住宅被災は、98世帯にも及びます。

——支部内の事業所、また組合員の皆さんの状況把握ができたのはいつ頃でしたか

支部内の家族状況まで取りまとめることができたのは6月下旬です。支部内の連絡体制が不十分であったこととあわせて、動ける時間が無かったために長期間を要することとなりました。

今回は、各会社との情報交換を行って来ましたので、社員の安否確認は早い段階で終わりましたが、組合員の家族や被災状況の把握が遅れてしまいました。

緊急時の連絡体制は、確立するよう準備していたつもりでしたが、全く機能しませんでした。

電話も通じない、メールも発信できない態勢の中で、どう連絡を取り合い、安否確認を行うのか改めて考えなければなりません。

業務に直接関わることでありますが、郵便業務に迷惑をかけますが、往復葉書を出して、安否の情報を返信してもらうことも必要かもしれません。

現在、組合員の管理は、会社別・職場別ですが、こういう事態になると出勤していない人に何ら対応することができません。現住所のエリア別に連絡体制を作って、地域の中で連絡し合える方策を考えていく必要も感じます。

——支部では組合員の皆さんにどのような支援をされていますか。

被災直後は支援物資の配達、瓦礫撤去や引越しの手伝い、局舎の復旧に向けた清掃などを行いました。最近は義援金・共済の世話活動、ご遺族への対応で精一杯でありました。

支部エリアのほとんどの地域が被災地域で、みんなで助け合うことがなかなか機能しませんでした。

——震災後の支援として、労働組合にこうしたことも出来るのではないかと感じた点がありましたら教えてください。

支えあう・助け合うことが労働組合の精神であることから、自らも被災している組合員も多くいますが、もっとこれまでに基盤整備できていればもっと動けたかと痛感しています。釜石の代表的な新日鐵釜石労組のように地域復興に力強く動いていたのを見ると、無力さを感じました。

——震災後、労働組合としての緊急時の体制などで改善したことは。

重要な項目については全ての組合員まで周知がなされるよう、個人宛送付・連絡など大変ではありますが行なってきました。しかし、現段階で今回のような大きな災害があった場合、残念ですが機能するか考えると、正直厳しいと分析せざるを得ません。活かしていないことに不甲斐なさを感じています。

——その他、気付いた点があれば教えてください。

まだまだ組織は成長段階であることをそれぞれが受け止め、失ったこと、無くした仲間を戻すことはできないが今回の震災で反省すべきことは忘れずに活かして欲しいし、犠牲になった仲間のためにも必ず活かさなければならないと支部執行部は考えています。

——最後に、全国の仲間の皆さんにメッセージをお願いします。

支援物資、義援金、業務支援など、いろいろな面で支援いただき感謝しています。何より全国の仲間に関心していただき、多くの激励をいただきました。折れそうな心に元気をいただくことができました。現在、当支部は関東地本の皆さんの温かく、力強い支援をいただいています。全国の仲間が「心ひとつに」のもと震災を風化させないように取組んでいただいています。長い道のりとはなりますが感謝を忘れず「心ひとつに」私たちが頑張っていきます。

全国のJP 労組組合員のみなさまへ改めて感謝いたします。「ありがとうございました」

(2012年3月6日取材)



復興への願い！高田松原の一本松